

平成24年度第1回審議会資料（7月24日開催）

**さぬき市民病院改革プランの取組状況
（平成23年度決算見込）**

さぬき市病院事業

1 数値目標に対する実績数値

(1) 財務に係る数値目標

(単位：%)

年度 項目	平成 22 年度	平成 23 年度			平成 24 年度
	実績	目標	決算見込	比較	当初予算
経常収支比率	104.2	92.5	96.2	3.7	95.8
職員給与費比率	64.2	61.7	66.4	4.7	63.6
一般病床利用率	75.5 (195 床)	90.0 (195 床)	71.6 (195～175 床)	▲18.4	86.5 (175 床)

- 経常収支比率とは、経常収益に対する経常費用の割合（経常収益÷経常費用）である。
平成 23 年度計画では、92.5%の経常赤字を想定していたが、決算見込では、96.2%と目標を 3.7 ポイント上回る結果となっている。これは、当初計画では 22 年度中に新病院が完成し、23 年度からは、新病院において診療を開始する予定であったことから、改革プランにおいても、新病院における料金収入や費用を計上していた。しかしながら、新病院建設工事が延伸したため、診療開始も計画より延伸し、収入、支出ともに旧病院での実績が主なものとなったため、想定に届かなかった。特に費用については、減価償却費が旧病院での計算額となり、計画より大幅に減額となり、支出額が計画より大幅な減額となったため、結果として経常収支比率としては目標を上回り達成した。
- 職員給与比率とは、医業収益に占める給与費の割合（給与費÷医業収益）である。
平成 23 年度計画では、61.7%を目標としていたが、決算見込みにおいて給与費は、計画策定時における看護師数が確保できていないこと等から計画以下となった。しかしながら、計画していた医業収益についても達成しなかったことから、決算見込では、66.4%となり、結果として目標を上回る高い比率となり、未達成となった。
- 一般病床利用率とは、延許可病床数に対する延入院患者数の割合である。
医師の臨床研修医制度が実施されて以降、当院の医師数も減少している状況や、平成 23 年度については、新病院への引越

を想定し入院患者を抑制したこともあり、入院患者数が前年度に比べ減少している。

(2) 公立病院としての医療機能に係る数値目標

(単位：人、%、件)

項目	年度	平成 23 年度			平成 24 年度
	平成 22 年度	目標	決算見込	比較	当初予算
年間入院患者数	53,747	64,060	50,219	▲13,841	55,261
年間外来患者数	125,430	156,250	125,181	▲31,069	132,294
患者紹介率	26.1	23.0	23.2	0.2	—
患者逆紹介率	16.9	15.0	16.8	1.8	—
手術件数	931	890	868	▲22	—
臨床研修医受入 人数	4	3	6	3	—

(3) 収支計画（収益的収支）

（単位：百万円）

年度 区分		平成 22 年度	平成 23 年度			平成 24 年度
		決算	計画	決算見込	比較	当初予算
収 入	1 医業収益	3,231	3,786	3,264	▲522	3,828
	(1) 料金収入	2,961	3,496	2,986	▲510	3,456
	(2) その他	270	290	278	▲12	372
	2 医業外収益	326	279	400	121	278
	(1) 他会計負担金・補助金	244	229	342	113	260
	(2) 国(県)補助金	24	1	24	23	1
	(3) その他	58	50	34	▲16	17
	経常収益	3,557	4,065	3,664	▲401	4,106
支 出	1 医業費用	3,266	4,247	3,502	▲745	4,194
	(1) 給与費	2,074	2,335	2,151	▲184	2,414
	(2) 材料費	618	814	610	▲204	688
	(3) 経費	477	548	650	102	669
	(4) 減価償却費	81	530	78	▲452	405
	(5) その他	16	20	13	▲7	18
	2 医業外費用	147	146	307	161	92
	(1) 支払利息	15	118	33	▲85	57
	(2) その他	132	28	274	246	35
	経常費用	3,413	4,393	3,809	▲584	4,286
経常損益	144	▲328	▲145	183	▲180	

区分		年度		平成 23 年度		平成 24 年度
		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 23 年度	平成 23 年度	平成 24 年度
		決算	計画	決算見込	比較	当初予算
特別損益	1 特別利益	0	0	0	0	0
	2 特別損失	1	0	104	104	535
	特別損益	▲1	0	▲104	▲104	535
純損益		143	▲328	▲249	79	▲724
累積欠損金		▲1,041	▲2,660	▲1,290	1,370	2,014
不良債務	流動資産	1,067	430	1,420	990	1,490
	流動負債	234	260	242	▲18	281
	差引) 不良債務	▲833	▲170	▲1,178	▲1,008	▲1,209

平成 23 年度計画収支については、計画策定時には平成 22 年度の新病院完成、平成 23 年度から新病院での診療開始を想定した計画となっていたが、建設工事の延伸により、診療開始は、平成 24 年 1 月 30 日開始となったため収益、費用ともに旧病院での実績が主なものとなる等、計画から大幅にかい離が生じ、23 年度決算見込では、249 百万円の赤字を計上することとなった。

平成 23 年度の経常収益については、入院・外来患者数が目標患者数を下回ったこと等により、料金収入が計画より 510 百万円減額となったが、他会計負担金・補助金等の医業外収益が計画より 121 百万円増額となり、計画より 401 百万円の減額となっている。

平成 23 年度の経常費用については、職員数が計画時に想定していた人数を採用できなかったため、計画より職員数が少なくなり、給与費が 184 百万円減額したこと、また、薬剤費などの材料費も 204 百万円減額したこと、経費については、新病院開院に係る消耗備品費や委託料等が計画より 102 百万円増額となったこと、減価償却費については、新病院の建物等の減価償却費計上は、平成 24 年度となるため、平成 23 年度は 452 百万円の減額となること等から医業費用としては 745 百万円の減額となっている。

また、医業外費用については、支払利息が工事の延伸に伴う借入年度の延伸により 85 百万円の減額となり、その他として建設に係る消費税関係雑支出が 246 百万円増額となる等、医業外費用としては、161 百万円の増額となり、

経常費用としては、計画より 584 百万円の減額となっている。

特別損益については、計画策定時に平成 23 年度において除却が終了する見込であったため、特に計上していなかったが、工事の延伸により、23 年度に旧病院の医療機器の除却費用 104 百万円を計上したことから、最終損益は、計画より 79 百万円プラスの 249 百万円の純損失となった。

(4) 収支計画（資本的収支）

（単位：百万円）

年度 区分		平成 22 年度	平成 23 年度			平成 24 年度
		決算	計画	決算見込	比較	当初予算
収 入	企業債	645	20	2,307	2,287	11
	他会計出資金	280	73	861	788	103
	国（県）補助金	495	0	1,402	1,402	4
	収入計	1,420	93	4,570	4,477	118
支 出	建設改良費	1,354	20	4,087	4,067	60
	投資	1	0	0	0	1
	企業債償還金	124	45	70	25	184
	支出計	1,479	65	4,157	4,092	245
差引不足額		59	▲28	▲413	▲385	127
補財 源	損益勘定留保資金	59	—	—	—	127
補てん財源不足額		0	—	—	—	0

資本的支出としては、計画策定時には、平成 22 年度に建設工事が終了する想定であったため、23 年度については、多額の建設改良費は想定していなかったが、本体工事が延伸し、23 年度に繰り越されたことから、23 年度に本体工事費及び資産購入費用を計上し、建設改良費として 4,067 百万円増額となった。一方、資本的収入としては、本体工事費用や資産購入費用の財源として企業債、他会計出資金及び県費補助金計 4,477 百万円を増額することとなった。

